【記者会見資料】

令和 6 年 10 月 30 日　　奈良県生駒市

杉原千畝（ちうね）から繋がれた命のバトン
敦賀市と連携して多文化共生講演会を開催

本市は、国際化推進の一環として、友好都市である福井県敦賀市の歴史を通して、命の大切さと平和の尊さを学ぶ多文化共生講演会を開催します。

「人道の港」としての敦賀の歴史を伝える資料館「人道の港　敦賀ムゼウム」。本講演では、館長の西川明徳（あきのり）さんを講師に迎え、当時の市民エピソードや今も続く関係者との交流についての話を聞きながら、「共に生きる」ことをグローバルな視点で考えます。

また、10 月 11、12 日に本市で開催した「地域共生社会推進全国サミット in いこま」。敦賀市は令和 4 年度に「ぬくもりをつなぎ、支え合い、共に生きる-人道の港　敦賀から全国へ-」をテーマに開催されており、その思いをつないでいきます。

上:敦賀の松原でのポーランド孤児たち。
下:上陸を待つユダヤ難民たち。朝日新聞記事 1941(昭和16)年6月6日より

■ 講演会「『人道の港 敦賀』の歴史～現代に繋がる交流と発信～」の概要

1　日　時　11 月 30 日(土)　13：30～15：00
2　場　所　コミュニティセンター　文化ホール
　　（公共交通機関をご利用ください）
3　対象者　市内に住むか市内へ通勤・通学している人
4　定　員　200 人（申込順）
5　申込み　11 月 8 日(金)から、市ホームページの申込フォームか、電話、ファクスで、人権施策課（〒630-0288 生駒市東新町 8-38、電話:0743-74-1111、FAX:0743-74-9100）
6　その他　手話通訳・要約筆記あり。生後 6 か月～就学前のこどもの託児（11 月 20 日(水)までに要申込）。

■ 杉原千畝の功績

1940 年 7 月、リトアニアの首都カウナスにある日本領事館前には、ナチス・ドイツの迫害から逃れるため、日本通過ビザを求め大勢のユダヤ難民たちが押しかけました。しかし、外務省の判断は「発給条件を満たさない者へビザを発給してはならない」というものでした。命の危機が迫っている彼らを見捨てることができなかった杉原千畝領事代理は、苦悩の末、合計 2,139 通ものビザを発給しました。

一人の外交官の決断により多くの尊い命が救われ、子々孫々との交流によって現代に至るまでその功績が語り継がれています。

■ 敦賀港の歴史と「人道の港　敦賀ムゼウム」

人道の港 敦賀ムゼウム

敦賀港は、明治から昭和初期にかけてヨーロッパとの交流の拠点として栄え、1920 年代にポーランド孤児、1940 年代には杉原千畝が発給した「命のビザ」を携えたユダヤ難民が上陸した日本で唯一の港です。

当時の建物を復元した同資料館は、命の大切さと平和の尊さを未来に語り継いでいくため、映像や展示を通してその史実を国内外に発信しています。

当日は会場で施設の映像紹介やミニパネル展を行います。

※「ムゼウム」はポーランド語で「資料館」を意味します。

この件に関する報道関係からのお問合せ
奈良県生駒市総務部人権施策課（課長 後藤）☎0743-74-1111（内線 4350）